

令和5年度 一般選抜（B日程）における小論文出題意図

人間生活学部 子ども学科

1. 小論文問題作成の基本的な考え方について

新潟県立大学の基本理念、人間生活学部と子ども学科のアドミッションポリシーに基づき、子ども学科が育てたい人材としての適性、資質及び大学の学びに必要な思考力、判断力、表現力をはかる。

2. 試験問題の内容および意図について

（内容）

近年、ダイバーシティやインクルージョン、利他や合理的利他主義という言葉をよく耳にするようになった。特に、コロナ禍で様々な日常生活の困難を抱えている人たちが可視化されるようになってから強調される傾向にある。

これらの言葉は、自分とは異なる他者を受け入れ、共に生きるという意味合いで使用される場合が大半である。社会が複雑化する中で、様々な背景や特徴を持つがゆえに、日常生活を営むうえで困難や生きづらさを抱えた人たちを受け入れ、共に生きるというこれらの言葉は一見、とても良い言葉であるような印象を受ける。

しかし、課題文として取り上げた2名の著者は、そうしたある意味楽観的な捉え方に「待った」をかける。言葉がもつ意味をしっかりと吟味し、検証すること、そして、他者と共に生きるためには、どうすればいいかということを考えさせてくれる問題文である。

（意図）

一見、世間一般で良きものとされている言葉と、出題文の著者らの評価が違うため、不意をつくような課題文かもしれない。しかし、そこから、著者の言いたいことは何であるのか読み取り考える思考力と、2つの異なる事柄(内田はダイバーシティとインクルージョン、中島は利他主義)を書いている著者の考え方にどのような共通点があるのかを見いだし、判断する能力および、それを自分なりに解釈し表現する力を見るための設問である。